

装いという鎧——ファッションの心理的防衛機能に関する研究

大阪ファッションクリエイション・ビジネス学科

後藤 璃音

【要旨】

本研究は、ファッションが個人の心理において果たす役割に着目し、装いが単なる外見的装飾ではなく、心理的防衛機能を持つ「心の鎧」として機能する側面を明らかにすることを目的とする。従来、ファッションは自己表現や流行の文脈で語られることが多かったが、本研究では心理学・社会心理学の先行研究を基盤とし、装いが感情調整や対人関係に及ぼす影響について理論的に整理した。さらに、筆者自身の経験に基づく考察および複数名へのインタビュー調査を通して、装いが実際の生活場面でどのように機能しているのかを検討した。その結果、ファッションは不安や弱さから自己を守る防衛的機能を果たすだけでなく、他者との距離感や場の空気を調整し、自己像を能動的に提示・操作する手段としても用いられていることが明らかになった。とりわけ、装いは「傷つかないための防御」としての役割にとどまらず、威圧感や存在感を演出することで他者の認知に働きかけ、社会的関係性をコントロールする積極的な機能も持ち得る。本研究は、ファッションを内面と社会を媒介する実践として捉え、個人が社会の中で生き抜くための重要な心理的装置であることを示すものである。

【目次】

第一章 はじめに

第二章 ファッションの心理的役割と「心の鎧」

- 2.1 「心の鎧」とは何か
- 2.2 装いの心理的機能
- 2.3 「心の鎧」が発揮される社会的文脈
- 2.4 現代における心の鎧の多様化

第三章 自己のファッション観と「心の鎧」

- 3.1 自己経験を通して捉える「心の鎧」
- 3.2 幼少期から形成された自己評価の揺らぎと外見への違和感
- 3.3 高校期：自己決定された外見と「心の鎧」の形成
- 3.4 浪人期から大学期にかけての「心の鎧」の変容
- 3.5 外見調整による心理的安定化：日々の状態に応じた「可変的な鎧」
- 3.6 先行研究からみる第3章の分析——「心の鎧」としての外見の位置づけ

第四章 当事者の語りからみるファッションの心理的機能

- 4.1 A：外見的強さの構築と内面の脆弱性の補完
- 4.2 B：「矛」として語られるファッションと完璧主義的自己防衛
- 4.3 C：フェミニン×タトゥーの二面性と「自衛」「可愛さ」の揺れ
- 4.4 D：心の鎧が「機能しない状態」からみるファッションの限界
- 4.5 E：内向性と外側の強さの二重構造
- 4.6 5名の比較考察——装いは心をどのように守り、高め、揺らぐのか
- 4.7 先行研究を元にした考察——「心の鎧」としての装いの再検討

第五章 結論

- 5.1 本研究で明らかになったこと

5.2 「心の鎧」という概念の再定義

5.3 自己と他者の往復から見えたファッションの心理的役割

5.4 今後の課題と展望

5.5 結びにかえて—服の、先へ

謝辞

参考文献